



あんこう

第 24 号

2020 年 3 月発行

「あんこう」は、オオサンショウウオの当地方の呼び名です

巻 頭 言

オオサンショウウオあれこれ

- オオサンショウウオスロープの設置例 ～生野町真弓の取水用井堰～ 1
理事長 岡田 純
- オオサンショウウオ幼生の再捕獲例 ————— 2
理事長 岡田 純
- おおさんしょーごはこわくない ————— 3
環境カウンセラー 川内 彬宏

随想

- アメリカからの留学生に聞いてみた、「日本人は自然に優しい人たち？」 4
会 員 高橋 瑞樹

ハンザキ研あれこれ

- 続・栃本先生追悼文と今後について ————— 8
理 事 田口 勇輝
- 国際ハンザキ大会（仮） in 朝来に向けて ————— 12
会 員 高橋 瑞樹
- ハンザキ研リニューアル 途中経過 ————— 14
事務局員 山崎 寛子
- 流出卵孵化装置製作記 1 ————— 16
事務局員 近藤 宏

イラストスケッチ

- ハンザキとの出会い ありがとうございました 栃本先生 ————— 17
事務局員 田口 愛子

イベント報告

- 令和元年度後半のイベント ————— 18

編集後記 （編集長 増子 善昭）

巻 頭 言

この冬ほとんど積雪の無かったハンザキ研は、例年より早く春を迎えました。そして今秋のリニューアルオープンに向けて改修整備作業が急ピッチで進んでいます。展示スペースが増やせるので栃本先生の偉業を分かりやすく紹介しよう、ハンザキの魅力を如何に伝えたらいいのか等々、スタッフは楽しみながら試行錯誤を重ねているところです。

また、全国的に拡大した新型コロナウイルスの感染拡大や、予防の為の自粛など今後の社会への影響が懸念されます。皆様もどうぞご自愛ください。

発行が遅れましたが『あんこう 24号』をお届けします。本号もバラエティに富んだ記事が寄せられています。川内彬宏さんの「おおさんしょーごはこわくない」は、のぞみちゃんがドラえもんの映画に登場するオオサンショウウオを観たことがきっかけとなり、驚きの展開に。川内さん、アニメ製作者の対応が本当に素晴らしく、感動の物語です。興味を持たれた方はアニメもぜひご覧になってください。高橋瑞樹さんの「アメリカの学生に聞いてみた」は、日米の教育の違い、日本人の自然観をご自身の教育経験から分かりやすく紹介してくれています。同じく高橋さんの「国際ハンザキ大会 in 朝来に向けて」は、ハンザキを通して人が出会い、繋がっていること、そしてハンザキが日本だけでなく世界の至宝であることを再認識させてくれます。高橋さんとは20年来の付き合いですが、ハンザキが取り持つ縁に感謝です。国際シンポをきっかけに日米中のオオサンショウウオについて相互理解を深め、広い視野でハンザキの保護や生息環境保全に繋がればと思います。田口勇輝さん・田口愛子さんご夫妻は、それぞれ栃本先生への追悼文続編、イラストをお寄せいただきました。先生との思い出やエピソードが綴られています。私も木槌にはびっくりしました。山崎さんは、ハンザキ研リニューアルの途中経過、近藤さんには、孵化装置製作の途中経過を報告していただきました。

ハンザキ研は、設立13年目に突入します。会員の皆様のご支援・ご協力を引き続き賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和2年3月

NPO法人 日本ハンザキ研究所
理事長 岡田 純

***2020年10月16日～18日に予定しておりました「日本オオサンショウウオの会 朝来大会」は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、2021年秋に延期となります。**

日程が決まり次第、HP等で告知いたします。

オオサンショウウオあれこれ

オオサンショウウオスロープの設置例

～生野町真弓の取水用井堰～

理事長 岡田 純

生野町にはハンザキを育む素晴らしい自然環境が残されている一方で、ダムなどによってハンザキの移動が困難になっている場所があります。その一つが JR 生野駅から程近い兵庫県立生野高等学校のそばにある井堰です（図 1）。この堰下の淵にはハンザキが確認されており（図 2）、2021 年秋に開催予定の「日本オオサンショウウオの会朝来大会」の観察会候補地にもなっています。先日、この井堰にハンザキ用スロープが完成しました。スロープは、朝来大会実行委員会に参画されている兵庫県養父土木事務所河川砂防課により設置されたもので、玉石の列が交互に配置されています（図 3）。驚いたことに養父土木事務所はスロープだけでなく、人工巢穴（雨水浸透ます式と木工沈床式）の増設も行い、さらにスロープと人工巢穴のモニタリングを当研究所と生野高校が共同で進めることをご提案いただきました。またとない機会なので井堰の下流にある既設の人工巢穴 3 基（図 4）を含め生野高校（まちづくり部オオサンショウウオ班）、養父土木事務所、朝来市文化財課と相談しながら調査計画を練っているところです。過日も寒い中（2019 年 12 月 19 日）、オオサンショウウオ班の生徒さんたちと土砂で埋まった人工巢穴の掘り出し作業を行いました（図 5）。

当研究所はスロープ設置によるハンザキに優しい環境作りを「ハンザキバリアフリープロジェクト」と命名し、学校や地域の皆さん、自治体（朝来市や県）を巻き込んで朝来市生野町からこのプロジェクトを進めて行き、ハンザキバリアフリーが市川だけでなく、さらに多くの河川に広がることを願っています。また、「ハンザキバリアフリープロジェクト」につきましては、説明を表記した看板をスロープの脇に設置する予定ですので、機会がありましたら足を運んで

スロープと共にご覧になってください。



図 1 生野高校そばの井堰



図 2 井堰直下で捕獲された個体



図 3 左岸に設置されたスロープ



図 4 共同管理予定の既設の人工巢穴



図 5 生野高校生との人工巢穴掘り出し作業

オオサンショウウオあれこれ

オオサンショウウオ幼生の再捕獲例

理事長 岡田 純

当研究所でマイクロチップにより個体登録された幼生（といっても変態に近い個体）が再捕獲された。幼生の再捕獲は珍しく、研究所のフィールドでおそらく初めてのことなので報告する。

この個体は、2018 年 10 月 27 日に日本工科大学校の野外実習中に初捕獲され、当研究所の 2019 年のカレンダーにも登場している。頭部右側にある黒斑が識別点&チャームポイントである（図 1）。約 8 カ月後の 2019 年 6 月 13 日にほぼ同じ地点にある石の下から再捕獲された。両日の全長/頭胴長/体重はそれぞれ 178 mm/116 mm /34 g から 196 mm/126 mm/48 g となり、全長は 18 mm（10%）大きく、体重は 14 g（41%）増加した。初捕獲時は小さいながら明瞭な外鰓が確認できたが、再捕獲時には一見すると見逃すほどに外鰓は縮小した（図 2, 3）。一方、頭部は厚みを増し、顎がしっかりしてきて（図 2, 3）、幼生から成体ハンザキに一步近づいた印象である。2019 年 5 月 14 日、6 月 5 日にも同地点で調査したが、幼生（他の個体も）は発見できなかった。どこに移動していたのか定かではないが、隠遁性が強く見つけにくい幼生にはお気に入りの住処がいくつもあり、それを河川環境の変化に応じて移動し、使っているのかもしれない。我々は見つけやすい一部の住処でのみ幼生とご対面できているだけではないだろうか。



図 1 初捕獲時の幼生



図 2 発捕獲時の頭部下面、外鰓の様子



図 3 再捕獲時の頭部下面、縮小した外鰓

オオサンショウウオあれこれ

おおさんしょーごはこわくない

(環境カウンセラー) 川内 彬宏

その日、かわいいお客さんがありました。当時 3 歳ののぞみちゃんは、お母さんとの散歩の途中で、私が勤めていた名張市郷土資料館に立ち寄りました。小学生のお姉ちゃんは学校が早く終わる日によく来ていましたが、のぞみちゃんが来たのはこれが初めてでした。

お姉ちゃんや、通っている保育所の話をしながら「オオサンショウウオ、プールにいっぱいいるけど見る？」とたずねた途端「おおさんしょーご!? イヤァー!」と、泣きながらテケテケと逃走をはかりました。ここへ来たことのある方はおわかりだと思いますが、道の向かいに駐在所があります。頼むからやめて・・・と思うと同時に、私の言い方が怖かったのかと落ち込みましたが、数秒後にはお母さんに確保されていました。確保後の供述によると「最近観たドラえもんの映画にオオサンショウウオが出てきた」「家と同じぐらい大きい」「スネ夫たちを追い掛け回していた」つまり、オオサンショウウオことおおさんしょーごはとても怖い生き物で、場合によれば自分を食べるのだということです。説得の末、プールの中では小ぶりのオオサンショウウオを見せ、誤解を解くことができましたが、一度その映画を観てみたいと思い、お母さんにタイトルを教えてもらおうと、早速仕事帰りにレンタルしました。

レンタルした映画「ドラえもん 新・のび太の日本誕生」では、約 2 時間の作中のわずか 1、2 分のことでしたが、のぞみちゃんの説明どおりのおおさんしょーごが登場し、スネ夫たちはご丁寧に「オオサンショウウオだ〜!」と言ってから襲われていました(図 1)。いくらフィクションであっても特別天然記念物に関して著しく史実に反する負の描写をすることは、いわば国家への冒瀆であると憤った私は、無駄な正義感を存分に発揮し、勝手にオオサンショウウオの言いぶんを代弁すべく、制作会社へ手紙で抗議をしました。

しかし、相手は国民の人気アニメです。私に返事などしては、たくさんのファンレターや意見、感想が届くだろうにと、あまり期待をしていませんでした。ところが投函して 3 日後、制作会社からの封書が届いていました。配達に

要する日数を差し引くとこれ以上ない早い返事です。返事が届いただけでも驚きでしたが「リメイクである本作の原作ではワニが登場していたが、時代設定上ワニが日本に生息していないため、代役でオオサンショウウオに襲わせた」「その子に怖い思いをさせて申し訳ない」「名誉挽回すべく、いつかきちんと登場させたい」というお詫びの内容でした。

後日、のぞみちゃんとお母さんには「ドラえもんからウソついてごめんねって返事があったよ」と伝えました。その後は、毎週の放送をオオサンショウウオが出ているかどうかのためだけにチェックするわけにもいかず、時々思い出したときにインターネットで検索をしていたところ、お返事をいただいてから約 3 年後の 2018 年 5 月 18 日、アニメ「のび太は世界にただ一匹」という国際的に保護されている動物に関する回で、あるべき姿で出演を果たしたのです(図 2)。

今回、著作権の都合で実際の画像は掲載していません。代わりと言ってはなんですが、恥をしたので私の力作を掲載しましたので、気になった方は、DVD 等でご覧になってみて下さい。

寄稿に際し、ご快諾いただいたのぞみちゃんとお母さんに厚くお礼を申し上げます。小学 2 年生になったのぞみちゃんは、今ではオオサンショウウオが大好きだそうです。



図 1 映画で襲われるシーン

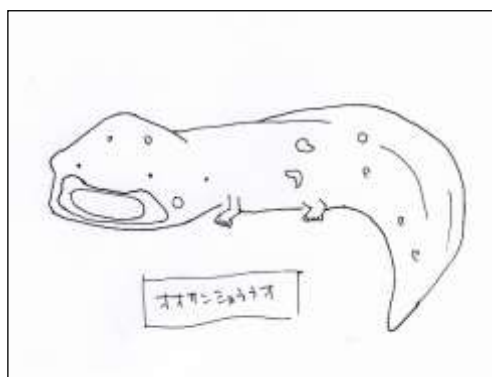


図 2 アニメで国際保護動物の例として登場

随 想

アメリカからの留学生に聞いてみた、 「日本人は自然に優しい人たち？」

会員 高橋 瑞樹

京都大学に隣接する百万遍の交差点近くにある借家から鴨川を渡り、風情満載の出町栞形商店街を抜け、アセビ、ジンチョウゲ、センリョウ、マンリョウなどの手入れされた庭木を嗜みつつ、相国寺の境内を囲う黄土色の壁を伝って歩くこと 25 分。同志社大学今出川キャンパスがある。そこで僕は昨年 2019 年の秋から日本の環境保全問題についての授業を担当している。今学期（2020 年春 semester）の学生さんは 19 人で、主にアイビーリーグからの短期留学生である。アイビーリーグなのでハーバード大学、ボストン大学、コロンビア大学など、いわゆる一流大学の学生さん達である。僕もクラスが始まる前はどんな学生さんたちなのか興味津々であった。また日本に対して、日本人に対して、彼らはどんなイメージをもって日本にやってきたのであろうか。みなさんも多少興味があるのではないかと思う。

以下、授業を通しての僕の主観的な学生さんの印象と、学生さんたちの日本人の自然観についての意見を紹介しようと思う。



同志社大学今出川キャンパス。2019 年秋。

1. アメリカからの留学生さんたちの印象

僕は普段はアメリカ合衆国のペンシルベニア州にあるリベラルアーツ大学（専門分野だけではなく社会人として必要な一般教養を広く身に付けてもらうことを目的とした大学）の生物学部の教員をしている。去年の秋から一年間、研究休暇（サバティカル）をいただいて同志社大学で授業を担当しつつ、ハンザキ研に通い研究をしている。主な研究内容はハンザキ研に大量に残された栃本コレクションの分類及びその処理である。。。それはさておき、ここでもう一つ大事な点は、僕が大学院修士課程修了まで、日本にいた、という点である。つまり、アメリカの学生について主観を述べるにあたり、現在アメリカで教えていることと、自分自身が日本で大学生・大学院生をしていたという経験が土台にある。

まずアメリカの学生一般についてだが、皆さんも想像する通り、日本人に比べて授業中の発言や質問が圧倒的に多く、教員としてはとても授業のやりがいがある。また、人前での口頭発表（パブリックスピーキング）がすごく上手である。これには僕も驚いたが、口頭発表と同じ内容のレポートを読んでもみると、実はあまり理解せずに発表していたことが明らかになることがあり、さらに発表のうまさに舌を巻くことになる。これには文化の違い、言語の違いが起因していることは間違いないが、さらに教育の違いも相当に大きいように思う。「出る杭は打たれる」的文化が顕著でないアメリカでは、堂々と人前で発表することは称賛されるべきことであり、小・中・高を通してパブリックスピーキングに場慣れしている感がある。もちろん中にはパブリックスピーキングの苦手なあがり症の学生もいたりするが、僕が大学生だった頃と比較して、また時々お話しする機会のある現代の日本人大学生と比較して、アメリカ人学生はより積極的で自分の意見をはっきり述べることができる、という印象を持っている。

大学の教育システムに関しても違いがありそうである。アメリカ合衆国の大学教育の現場では、「学生主体=Student-centered」、「能動的学び=Active Learning」、「批判的思考=Critical Thinking」を授業に取り入れる努力なされて久しい。先生が一方向的に授業をするのではなく、学生が主体性をもって自ら学ぶことが大切で、そこには前提を疑う（批判する）姿勢が大切である、という教育法である。こういった教育法を見つけるためのセミナーに参加したことがあったが、日本の国立大学で学んだ僕にとっては衝撃的であった。例えば、「Think-Pair-Share (TPS)」という手法があるが、教員が答えを与えるのではなく学生から引き出すために、まず自分で考えてもらい (think)、周りの学生と議論する (pair share) ことで、学生が自らの力で問題解決ができるように促す手法である。単純なことではあるが、TPS を意識して授業に取り入れていくと、授業に活気がつく。こういった取り組みは日本の大学でも行われ始めているが、まだまだ差は大きそうである。つまり、アメリカの学生がより積極的に自分の意見をはっきり表現できるのは、こういった教育方法の違いによるところも大きそうである。

さて次に、日本に留学中の学生についてである。彼ら・彼女らはアメリカの大学生であるが、日本に興味を持ち留学をしているという点で、相当にユニークな集団である（ほとんどのアメリカ人は日本に興味がない）。このユニークな集団は三つの大きなカテゴリーに分類され、1) 日本に何らかのルーツを持つ学生（日本語はほとんどできない）、2) 他のアジア諸国（主に中国）からアメリカに留学して、そこからさらに日本に留学している学生、そして、3) それ以外のアメリカ人留学生、となる。今のクラスでは3番カテゴリーの学生さんが6から7割を占めるが、場合によっては1番、2番カテゴリーを合わせた学生数が5割ほどになることもある。この全てのカテゴリーに共通しているのが、日

本のアニメや漫画好きが多い、という点である。また、ほぼ全員が文系の学生さんである。

みなさん憧れの日本に留学しているので、日本関連の授業には熱心である一方、宿題が少しでも多いと、せっかく日本に来たのに遊ぶ（観光も含む）時間がなくなるのだと切実に訴え、授業に支障をきたすこともある。日本の大学生に比べてアメリカの大学生の勉強量は相当に多く、その傾向は理系専攻においてより顕著である。なので、普段生物学専攻の学生を相手にしている僕としては、留学生の宿題に対する文句の多さには最初は閉口した。日本からアメリカへ留学すると、もちろん全て英語での授業になるので、死ぬほど勉強しなくては授業についていけない。なので遊ぶ時間なんてほとんどないのだ。一方アメリカから短期（半年、もしくは一年）で海外に留学する時には、基本英語で授業がなされるので、観光気分が蔓延するのかもしれない。そもそも短期留学は観光だと思っている節もなきにしもあらず、である。

ということで、僕も基本は英語授業を行っているが、日本に留学しているからには学生さんたちもなるべく日本語を勉強したいと思っているので、少し簡単な日本語を交えたり、日本語の授業では習わないような日本語を教えたりして授業をしている。例えば Mammals はみな知っていても、哺乳類という日本語は知らないので、漢字で「哺乳類」と黒板に書いたりすると、「お～っ」ということになるのである。さらに、日本人の僕が日本についての授業をしているので、みな素直に聞いてくれて、挑戦的な学生もほとんどいない。さらに、日本の文化を尊重しようと、みな礼儀正しく振舞う努力を惜しまない。それなので、一流大学の勉強のできる学生さんだが、日本に来ている留学生は、アメリカの大学生の積極性、主体性を備えながら、なおかつ無邪気で可愛い、というのが僕の主観的な印象である。宿題に対する文句対策で、宿題をあまり出さないようにしているのも、ミソである。

ついでに、僕が立派なおじさんに仕上がったことも、「無邪気で可愛い」と思ってしまう理由の一つだと白状しておこう。



シカの食害についての授業で京都市の宝ヶ池公園を訪れた時の写真。シカの糞を見つけて喜ぶ留学生たち（右端が筆者）

2. アメリカからの留学生が抱く日本人の自然観について

僕が教えている「日本の環境保全問題」の授業の最初のトピックが、日本人の自然観についてである。最初の授業で必ず、「欧米人（アングロ・サクソン諸国の人々）と比べて、日本人の自然との関わり方は違いますか？」と聞くことにしている。そう聞くと、「日本人は欧米人に比べて、自然に優しい（Eco-friendly）人たちが多いと思う」、という意見が多い。「何故そう思いますか？」と聞くと、「アメリカでは自然破壊がひどいから」とか、「神道や仏教の教えはキリスト教より自然に優しいから」とか、「宮崎駿監督のアニメの多くで自然に優しい日本人が描かれているから」とかいう意見がでてくる。また、「日本人は礼儀正しいし、街もきれいにしているし、なんとなく自然にも優しい人たちでは？」という声もある。一方、「日本人のプラスチック袋の浪費にはびっくり！」、という意見もよく耳にする。

みなさんの中には、なんとなく日本人の方が欧米人より自然に優しい人々かな、と思う人も多いのではないのでしょうか。宿題の一環として、

留学生がホストファミリーや日本人の友人にインタビューしてみると、実はそういう声が日本人の間から多く聞かれる。つまりこのインタビュー結果から見えるのは、アメリカからの留学生だけでなく、日本人も概して自分たちが自然に優しい人たちだ、と持っているということだ。一昔前（30年から40年まえ）の人文系研究者の論文にも、仏教は殺生を禁じ、神道は自然との共存を理念としていて、そういった文化的背景を持った日本人はキリスト教文化を持った欧米人と比べて、自然に対して節度をもって接してきた、と結論付けているものが少なくない。キリスト教においては、神が人間を創造し、人間が利用するためにその他の生物を創造した、という教えがあるからである。つまりキリスト教の下では、自然を利用し手を加えることは人間に与えられた権利として正当化されるのである。

少し話は飛ぶが、もともと僕が留学を決めた理由の一つとして、一度日本から出てみたかったという強い思いがあった。日本社会の閉塞感、保守性、偏った価値観、人口密度の高さ、などなど、嫌気がさしたのである。しかしながらどこの国にも問題はあるわけで、海外に住んでみると自国の良さに気づき、やがて美化しだしたりするのである。なのでヨーロッパ移民がアメリカの大地で大規模に行ってきた自然破壊、ネイティブアメリカンが長年共存してきた自然を100年足らずで破壊してしまった歴史、を知るにつれ、日本人だったらこうはしないよなあ、という思いが僕の中でも大きくなっていったのである。

ここで再びアメリカからの留学生が一般的に抱く日本人の自然観についてまとめると、往々にして「日本人は自然に優しい人々だ」、というものである。これがこの章での結論であるが、せっかくなので実際日本人は自然に優しい人たちなのか、という疑問に答えた論文を紹介しておこう。1991年に Conservation Biology（保全

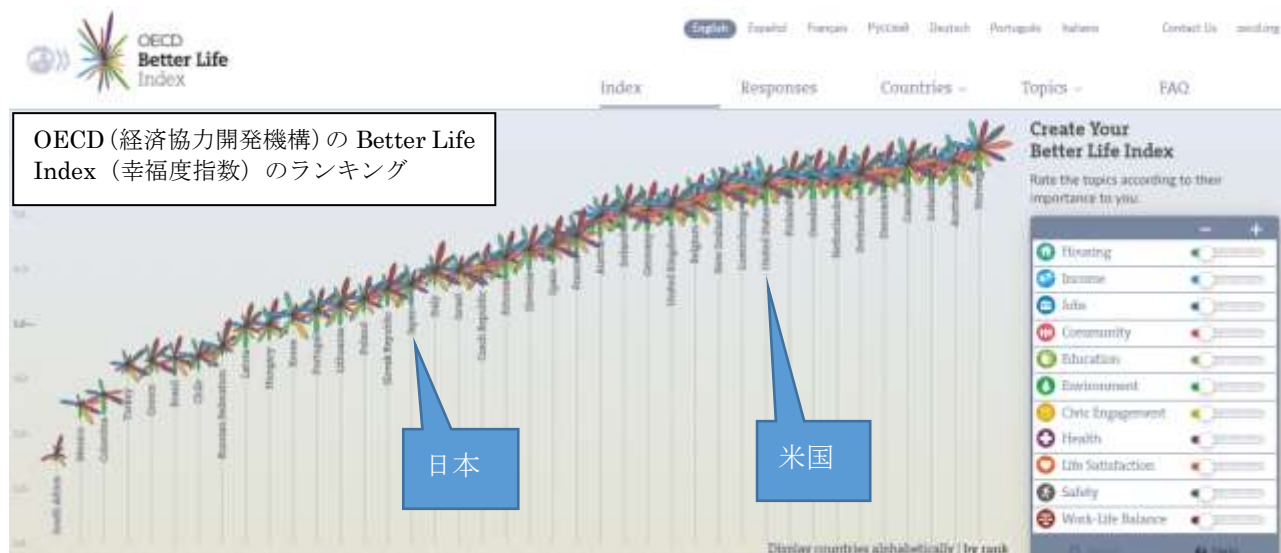
生物学) という一流の国際誌に、ケラートさんという当時エール大学の教授をなさっていた方が自身の研究結果を発表したものだ。彼は社会科学的手法 (アンケートとインタビュー) を使って日米間の自然観の比較を行ったのだが、その結論は以下の通りである。

「日本人はアメリカ人と比較して、自然を管理・支配することから生ずる満足感により大きな価値を見出し、自然に対する倫理観、生態学的危機感に欠如している。さらには、アメリカの方が自然についての知識が豊富である。」

これについては以前も「あんこう」で取り上げたが、なかなかショッキングな結論である。しかしながら、他にもいろいろとデータをみたり、自分でも日本の自然保護の現状の理解に努めた結果、今ではケラートさんの結論は納得のゆくものであると素直に受け入れている。1991年と古い論文だが、日本人の自然観は当時とそんなに変わっていないように思う。この結論はもちろんアメリカからの留学生にとってもショッキングなもので、「ケラートさんは考察で日本を批判しすぎている」と日本人の援護に回る学生もいる。しかしながら、データに基づく結論であるし、留学生自身も直接日本人に自然について聞いてみると、この結論に見合う答えが返ってくるので、今では日本人ってそうなのね、と納得している。

最後に、アメリカからの留学生が日本人の自然観について好意的な印象を持っているのは、日本を、日本人全体を美化しているからだと思う。この日本美化の裏にあるのが、自国への不満、まさに若かりし僕が抱いて日本を出た感情だと僕はみている。社会民主主義者のバーニー・サンダース氏が若者から圧倒的な支持を得ているが、それはアメリカの若者の多くが現在のアメリカ社会に疑問を抱き、失望しているからだ。そこで理想を外に求めるのではないかと僕は思う。僕は日本が好きだし、良い国だと思うが、留学生の目には隣の芝が現実以上に緑に見えてしまっているようだ。ちなみに OECD (経済協力開発機構) の Better Life Index (幸福度指数) によると OECD40 カ国中、アメリカは 10 位、日本は 25 位である (以下図参照) (<http://www.oecdbetterlifeindex.org/>)。

日本について特筆すべき点は、民主主義への市民参加が 40 か国中 36 位、主観的人生満足度が 32 位、ワークライフバランス (仕事とプライベートのバランス) が 35 位と、とても低いことである。個人の意見としては、納得のデータである。と同時に、ハンザキ研など市民団体やボランティアに積極的に関わっている人の人生満足度は高いのではないかと思います。みなさんはどう思うでしょうか。



ハンザキ研あれこれ

続・栃本先生追悼文と今後について

理事 田口勇輝

今回の原稿を考えながら、会誌あんこう 23 号の栃本武良先生追悼集を読みかえしてみました。ひとつひとつのエピソードから、本当にたくさんの方々から栃本先生を慕われ、先生のところへ集っていらしたのだなということがひしひしと伝わってきます。同時に、亡くなられて 1 年が経とうとする今、少し薄れかけてきた先生との思い出が、くっきりとまた彩りをもって蘇ってきました。あんこう 23 号にも追悼文を書かせていただき重複する部分もありますが、再度ここに先生を偲ぶ思い出を書かせていただくことをお許しください。先生との思い出を整理するとともに、今後の活動に向けた思いをまとめられればと思います。

栃本先生と初めてお会いしたのは 2004 年でした。大阪府立大学大学院でハンザキの研究を始めることになり、指導教官の夏原先生に連れてもらってお伺いしたのが姫路市立水族館の館長室です。その後、ハンザキについてたくさんご指導をいただき、愛知県瀬戸市のオオサンショウウオ調査委員会でも、栃本先生が委員長をされるなか、委員としてメンバーに加えてくださいました。写真 1 はそのときのもので 2006 年 8 月 16 日に栃本先生の後ろを付いて調査している風景、私が持っている栃本先生の写真で



写真 1. 瀬戸市オオサンショウウオ調査委員会の調査にて (2006 年 8 月 16 日) .

1 番古いものです。委員会の調査が終わると、いつも決まって先生の部屋に集まるよう号令がかかり、お酒を飲みながら明け方までハンザキ談義をして楽しい時間を過ごしました。

博士課程の研究が始まる前 (2006 年 4 月) と終わった後 (2009 年 9 月) に、栃本先生が長年踏査されていた魚ヶ滝下流のフィールドで 7 夜連続調査をさせていただきました。日暮れ前の夕方 18 時から日の出後の早朝 6 時まで、250m の調査区間を下流から上流まで 2 時間ごとに 1 回、1 晩に合計 7 回踏査してハンザキの自然な出現行動を調べる研究です。個体を触ると自然な行動を妨げてしまいますので、個体には可能な限り触らずに、1m の棒の先にあるセンサーで左肩に埋め込まれているマイクロチップを読んで個体を識別し、位置と行動を記録していきます。先生による長年の継続調査により、ほとんどの個体にマイクロチップが挿入されているからこそできた調査です。このとき、ハンザキ研に寝袋を持参して寝泊まりをさせていただきました。朝 6 時の回の踏査を終えてハンザキ研に戻るのは、7 時は回ってしまいます。その頃には朝食も食べ終わられてラジオでニュースを聞かれている先生に結果の報告をするのですが、そこからまたハンザキ談義が盛り上がり、フラフラになりながら 9 時頃に寝た日々が忘れられません。なお寝泊まりさせていただいた、先生が寝られていた部屋には、井筒屋さんの「あんこう抱き枕」が何体も転がっていたり、湯原温泉のハンザキ浴衣が掛けられていたりしました (写真 2)。



写真 2. 7 夜連続調査時に使わせていただいた寢室 (2009 年 9 月 17 日) .

また、冷蔵庫を開けると、中にはアサヒビールがみっちり詰め込まれていたことがとても印象に残っています（笑）（写真 3）。



写真 3. 7 夜連続調査時に冷蔵庫を使わせていただくとしたら……（2009 年 9 月 17 日）。

就職先を探すときに、本当は関西に残ってハンザキ研の活動にもっと関わっていきたくて考えていました。いくつか研究機関の公募に応募しましたが、なかなか採用が決まりません。あるとき、広島市安佐動物公園の採用試験があるという連絡を受けたものの、広島へ行くとなかなかハンザキ研にも行けなくなるので、とても迷って栃本先生に相談しました。すると、「まずはしっかりと生計を立てないと、長くハンザキに携わっていくこともできないし、安佐には小原さんが築いた他にはない歴史と良いフィールドや繁殖施設もあるので、ぜひ行ったらいい！」と強く背中を押していただき、応募を決心しました。無事合格しましたが、就職してからも悩みの尽きなかった私にいつも頑張れと応援してくださいつつも、ときには「姫路市立水族館で募集が出てるよ」と教えてくださったこともありました。

公私ともにたくさんお世話になりましたが、結婚式でもスピーチと乾杯のご発声を引き受けてくださり、「これから 60 年、ハンザキ研究のバトンをつないで欲しい」と激励されたことに、会場の皆様が笑顔で乾杯してくださいました（写真 4）。「ハンザキの寿命は長いので、何世

代も研究を続けていかないと寿命も解明できない」と、よくおっしゃられていました。



写真 4. 結婚式での「オオサンショウウオと共に 60 年」とのご発声に笑顔で乾杯（2009 年 9 月 17 日）。

私の息子が生まれたときも、ハンザキ研メンバー東口さんの息子さん：雄河くん、岡田さんの息子さん龍河くんに続き“3 人目の河”ということで、もうあれしかないだろうと言われました。私も思い描いていた“大河”という名前を電話にてお伝えすると「そうそう、そうだよ！」と見事一致して喜んでくださったことが昨日のここのようです。何度か息子をハンザキ研に連れて行き抱っこしてもらったこともありますし（写真 5）、安佐動物公園で 2014 年から毎年開催しているオオサンショウウオ共同研究シンポジウムにも体調が優れないなか足を運んでくださり、皆で写真を撮ったこともありました（写真 6）。また、ハンザキ研にいろいろな方をお連れしたときには、いつも熱心に研究所のなかをご案内してくださり、みんな先生の話に引き込まれて資料を見入っていました（写真 7）。本当に、ハンザキを、研究所を愛していらっしゃるのだなあということがいつも伝わってきました。



写真 5. ハンザキ研にて息子の大河を抱いていただいたときの様子（2014 年 1 月 25 日）。



写真 6. 安佐動物公園にて娘の花を抱いていただいたときの様子 (2016 年 11 月 6 日)。



写真 7. ハンザキ研にお連れした動物園仲間に標本を案内していただいたときの様子 (2016 年 8 月 15 日)。

栃本先生は私にとって本当に存在が大きくて、じつの父のような存在でした。あるときハンザキ研に調査に行ったら栃本先生がいらっしやられないときに、めちゃくちゃ寂しい思いをしたことを覚えています。そのとき、ハンザキ研には調査に行きたかったというより、もしかしたら栃本先生に会いに行きたかったのかなと思いました。こころにぽっかり空いてしまった穴が塞がるには、まだすこし時間がかかりそうです。なにかの拍子に、衝動的に大きな寂しさと悲しさが襲ってくることもあります。「ぼくはもう人生のロスタイムを走っているから、いつコロっといってもおかしくない」と笑い飛ばしていらした先生は、きっと悲しんでいる暇があればハンザキの論文を書けと叱咤されるでしょうか。

ハンザキ研で開催した栃本先生を偲ぶ会では、先生の奥様とお話する機会がありました。亡くなられる前日には、奥様に神戸新聞を買ってく

るよう言われた、という話をお伺いしました。ちょうど、ハンザキ研の総会の翌日だったこともあり、ご自分では読む元気がないなか、奥様に総会の記事が書かれていないかを探してもらったそうです。しかし、残念ながら記事はありませんでした。そのことをお伝えになられると、「ちゃんと言っておけば良かった！」と先生はとても残念がられたそうです。最後の最後までハンザキ研のことを気にされていたご様子が、このエピソードから伝わってきました。

さて、栃本先生との思い出は尽きませんが、過去を大切にしながらも未来に向かって、自分は今、何をしていくのが大切だと考えています。将来的に栃本先生、岡田理事長の後を継がせていただきたいという思いを秘めて、今はしっかりと力を蓄えていく時期だと思います。まず、就職して丸 10 年が経った安佐動物公園の飼育技師として、動物全般の飼育・展示の能力を高めていながら、特にハンザキに関わる様々な業務を精力的に進めていきたいです。数百個体を飼育するオオサンショウウオ保護増殖施設では繁殖技術の確立を目指しつつ、同時に国内外の研究者との共同研究も進めていければと思います。動物園のフィールドでは、ハンザキの生息環境と生息状況についての調査を進めながら、地域の方々と協働した環境保全や環境教育の取り組みも進めています。また、昨年度から拝命した、日本動物園水族館協会のオオサンショウウオ計画管理者として、約 30 ある国内のハンザキ飼育施設と連携して、より良い飼育・展示方法の調整をおこなっていきます。動物園以外では、日本オオサンショウウオの会の事務局員としての仕事や、山口県岩国市オオサンショウウオ調査研究委員会の委員としての仕事にも可能な限り尽力していきたいです。そして、国内だけでなく海外のハンザキ研究についてもしっかりと論文を読んで勉強していかなければ！

(岡田理事長と一緒にアメリカオオサンショウウオの会議へ参加していると、岡田さんがいか

にそれぞれの研究者の研究内容を把握されているか、ということにいつも驚かされます!)。また何より、ひとつひとつの研究成果を論文として発表していくことが一番大切なことです。「データが腐っちゃう前に早く論文にしろよ!」という天からの栃本先生の厳しい声に耳を塞ぐことなく、ちゃんと手を動かしていかなければと思います。同時に「無理のない範囲で出来るときにやればいいんだよ」という優しい声にも耳を傾けながら、これからハンザキと共に 50 年継続した取組みを進めていきます。

最後に、栃本先生の資料を整理していたら大変面白いものが出てきたということで、見せていただいた小づちをご紹介します(写真 8-1)。そこには所狭しと小づち全体に、まるで呪文のように(?) 栃本先生の記録や想いの数々が書き込まれていました。「書き込まれていた」というほうが適切でしょうか。それらを列挙させていただき、この小文を終わろうと思います。

「ハンザキは、何年生きていくのか?」(写真 8-2)

「岡田 純・田口勇輝 両君へ たのんだぞ!」(写真 8-3)

「100 年つづけよ、200 年続けよ。岡田、田口、そのあともしっかりと!」(写真 8-4)

「ケイスケ、リョウガ、ユウガ、タイガ……誰れかがひきついでくれよ」(写真 8-5)

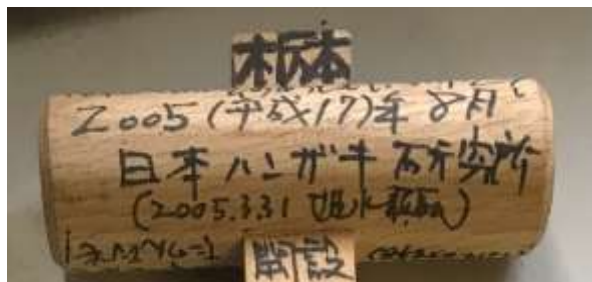


写真 8-1. ハンザキ研に残されていた栃本先生の思いが所狭しと書き込まれた小づち。



写真 8-2. 「ハンザキは、何年生きていくのか?」



写真 8-3. 「岡田 純・田口勇輝両君へ たのんだぞ!」



写真 8-4. 「100 年つづけよ 200 年続けよ! 岡田・田口 そのあともしっかりと!」



写真 8-5. 「ケイスケ・リョウガ・ユウガ・タイガ……誰れかがひきついでくれよ。」

ハンザキ研あれこれ

国際ハンザキ大会（仮） in 朝来に向けて

会員 高橋瑞樹

今秋のオオサンショウウオの会の朝来大会は、国際大会として国内だけでなく国外からもヘルベンダー（アメリカオオサンショウウオ）とチュウゴクオオサンショウウオのエキスパートの参加が予定されているのをご存知だろうか。現在新型コロナウイルスの影響で世界情勢は不安定な状態にあるが、予定通りことが進めば、日本の兵庫県朝来市生野町に世界のオオサンショウウオの研究者・関係者が集うことになる。人口 3,500 人ほどのこの町に、おそらく日本人でさえ知っている人が少ないであろう生野町に国外からも熱い視線が送られているのは、生野町を流れる市川が日本有数、いや世界有数のオオサンショウウオの生息地であると共に、それに惚れ込んだ栃本先生がその情熱でもってハンザキ研究所を作ってしまったからである。ハンザキ研の名前は国外のオオサンショウウオ関係者の間でもかなり知れ渡っているのだ。

栃本先生は買い物かごを改造して作ったお手製&ご自慢の「調査道具入れ背負いかご」、と共に電車とバスに揺られて姫路と黒川の間を何度往復したことだろうか。昨年九月発行のあんこう「栃本先生の追悼集」を読むと、ハンザキへの情熱という「火」にアルコール（主にビール）が文字通り「油」となってそそがれ、黒川通いとハンザキ研創立の原動力となっていたようだ。

それはともかく、「生野」という土地と「栃本武良」という人物の出会いがなかったら、予定されている国際大会など毛頭なかったのは間違いない。さらに大事なことは、その出会いがなければ、世界有数のオオサンショウウオの生息地を世界有数とならしめるハンザキ個体数の多さを証明した長年の調査と、その調査に基づく将来の保護区作りへの展望は、あり得なかったのである。

現理事長の岡田さんや副理事長の黒田さんと、

「オオサンショウウオの会の朝来大会は国際大会にしたら盛り上がるね」、などと話し始めたのはいつの頃だったか。ハンザキ研と朝来市がオオサンショウウオの会の大会を主催すると決まったあたりからそんな夢のような話がチラホラでていたような気がする。国際大会開催を実現しようと決意を固くしたのは、今年の春、栃本先生が急逝された時のことである。国際大会実施は栃本先生が一番喜ぶことであろうし、新体制のハンザキ研にとっても再出発の景気づけが必要である。さらに、ハンザキ研は地域に根差した研究所として、生野町・朝来市の方々と協力して発展していく必要がある。国際大会をその協力体制強化のきっかけにしたいという岡田理事長の強い思いがそこにはある。

米国にて 2003 年から隔年で開かれているヘルベンダーシンポジウムに岡田さんと僕は初期の頃から参加している。当初はヘルベンダーの研究はあまり進んでいず、ハンザキの巣穴や幼生そして繁殖行動についての岡田さんの発表はヘルベンダー研究者にとって衝撃的なものであった。その後 2010 年に米国から 3 人のヘルベンダーの研究者が日本のハンザキについて勉強しに来日した（ちなみにこの三人は今秋の国際大会に参加予定である）。もちろんハンザキ研究所にも立ち寄り栃本先生とも交流している。その後ぐらいからであろうか、ヘルベンダーの研究が劇的にスピードアップしたのは。セントルイス動物園ではヘルベンダーの完全室内繁殖を成功させ、ヘッドスターティングと言ってヘルベンダーが減少している河川に丈夫に育ったエラの無くなった幼体を放流する保全プログラムが始まった。もちろん河川環境の改善にも取り組んでいる。日本の人工巣穴をヒントにヘルベンダー用に独自の人工巣穴を開発し、バージニア州では百基ほどの人工巣穴を河川に設置し壮大な研究が進んでいる。その他、ヘルベンダーの集団間に遺伝的な違いがあるのか、ダムが個体間の移動に与える影響はあるのか、ヘルベンダ

一の表皮にはどんな微生物が共生しているのか、などなど、実に幅広い研究が、大学の研究者、動物園の飼育者・研究者、そして各州の野生動物保全課の職員の方々が、独立して、または共同で研究に励んできた。研究資金も日本に比べると桁違いである。

その成果を強く印象づけたのが、2015年にセントルイスで行われたヘルベンダーシンポジウムであった。僕と岡田さんは、量、質ともに日本のはるか上に行くヘルベンダー研究を目の当たりにして、「なんか具合悪くなるよね(苦笑)」と話し合ったのであった。

世界のオオサンショウウオ研究者の共通の思いは、「この魅力的な動物をどうにか未来に残していきたい」、というものである。が、「そこに全く競争心はないのか?」、と問われたら、「多少はある」、というのが正直なところであろう。研究者もアスリートと同様、競い合い、お互いの研究成果を糧にして研究を進めていくものである。そこで分かりやすくマラソンに例えると、米国には2時間前半で走るランナーがごろごろいるのに対して、日本には3時間を切るか切らないかのランナーが数人、といったところか。かなりいい加減な例えだが、言わんとするところは分かってもらえたと思う。チュウゴクオオサンショウウオの研究もロンドン動物園のチームが中国人の研究者と共同して、素晴らしい研究成果を上げている。つまり国際大会のもう一つの目的は、国外の研究者や保全活動家から多くを学び今後のハンザキ研究と保全に生かす、ということだ。

では何故世界のオオサンショウウオファンが日本のハンザキに注目するのか。それは日本にはまだ比較的多くのオオサンショウウオが残っているからである。中国では野外絶滅に近い状態でいくら探してもそう簡単には見つからない。ヘルベンダーはまだ数はいるが、体サイズも小さく、基本的に大きな河川にいますので、見つけにくい。体サイズも大きく、その割には小さな

河川にも生息していて見つけやすい日本のハンザキは、世界の両生類好きの憧れの的、と言っても決して過言ではないのである。

最後に私事であるが、僕が岡田さんと最初に会ったのはかれこれ20年ほど前、留学先の米国ウェストバージニア州であった。日本から和製ポップ・マーリーが来るぞ、と言って紹介されたのが岡田さんであった(笑)。僕の研究室を2年先に卒業したジェフという人物がヘルベンダーの研究をしていて、岡田さんはこの正体不明のジェフというアメリカ人のところに、日本から単身、便所サンダルをはいて、ひょい、と現れたということだ。ちなみにジェフは2003年にスタートしたヘルベンダーシンポジウムの発起人である。ジェフ、岡田さん、僕がウェストバージニアで繋がり、それが巡り巡って今回の国際大会へと繋がっているから不思議なものである。

お気づきの方もいると思うが、オオサンショウウオがいなかったら僕は岡田さんには会っていない。ということは、栃本先生、まるつねの黒田夫妻、ハンザキ研のスタッフの方々にも会ってはいない…。ハンザキ研自体が存在しないことになるので当たり前だが、僕たちはハンザキを通して繋がっているのである。

今回の国際大会では国内外から多くの参加者を見込んでいる。これをお読みの皆さんにも是非参加していただき、そこでたくさんの新しい繋がりを作っていただくと同時に古くからの繋がりを一層強力なものにしていただきたい。その繋がりが今後のハンザキ研を、朝来市を、そしてハンザキの保全を支えるネットワークとなるのであるから。

大会でお会いするのを楽しみにしています!

***2020年10月16日~18日に予定しておりました「日本オオサンショウウオの会 朝来大会」は新型コロナウイルス感染拡大を受け、2021年秋に延期となります。**

ハンザキ研あれこれ

ハンザキ研リニューアル 途中経過

事務局員 山崎寛子

栃本先生が亡くなって、早いもので一年が経とうとしています。この間にハンザキ研をめぐる状況も少しずつ変化してきました。また今年には、「第 17 回日本オオサンショウウオの会・朝来大会」を開催する予定にもなっています。今後のことも見据え、昨秋以降ハンザキ研では施設内部のリニューアルに取り掛かっています。まだまだ終わりは見えませんが、現在の状況を一部、皆さんにご紹介します。

- ① 栃本先生が収集された膨大な書籍・資料は 2 階へ移動し、分類し直して、大切に保管することにしました。書籍の移動では、日本工科大学校の学生さんの若い力に大いに助けられました。



本棚ごと 2 階へ移動



日工大の学生さん達

- ② 同じく栃本先生が収集・作成された標本も、2 階のバックヤードに一旦移動・整理しました。この中から皆さんにぜひ見ていただきたいものを 1 階「標本室」に展示する予定です。



以前の標本室



2 階のバックヤード

- ③ 以前、書籍が置かれていた部屋は「会議室」、「受付・グッズコーナー」などとして整備中。



会議室はすでに運用中



受付には“ハンザキ大明神”

- ④ 新しく「図書室」を作ります。①の書籍の中から選んだ、オオサンショウウオをはじめとする様々な生き物に関する書籍を、ゆっくりご覧いただけるスペースにする予定です。



本棚と机が入りました



くつを脱いでくつろげるスペース

- ⑤ この他に、玄関周辺や校庭・プールなども、少しさっぱりとさせるよう、片付けや雑木の伐採などを行っています。



伐採した雑木の運び出し



藪の中から石碑が出現

月に数度、事務局員を中心にボランティアで作業を行っています。やらなければいけないことはまだまだあります。ご都合のつく方は、ぜひお力をお貸しください。
ボランティア活動の参加申し込みは、ハンザキ研HP (<https://www.hanzaki.net/>)『ボランティア活動申し込み』よりお願いします。

ハンザキ研あれこれ

流出卵孵化装置製作記 1

事務局員 近藤 宏

事務局員のみなさま、ボランティア作業ご苦労様です。ハンザキ研究所リニューアル作業も第二フェーズに移行しつつあります。

第一フェーズはニュートラル化を目的にしていたように思います。言い換えれば栃本先生色からの脱却でしょうか？決しておもちゃ箱をひっくり返したようなハンザキ研究所が嫌いだったのではありませんが、栃本先生亡き今後は残されたメンバーが自身で考え行動すべきだと思います。先ず整理（要、不要物を分け、不要物を廃棄する）整頓（必要な物を順序立てて配置する）危険個所の修理はほぼ終わりつつありますが、専門知識が必要な書籍、標本、調査データなどは移動させただけで整理整頓は手つかずです。これこそが栃本先生が遺してくれた大切な遺産なので精査して最終的には公開したいです。

第二フェーズは栃本先生のライフワークでもあった追跡調査を継承しつつ、新たな挑戦の下準備です。

以前からの取り組みのひとつ「流出卵を保護し孵化飼育後川へ帰す」ですが、保護水槽が元プールの機械室に設置されており4人も入室すれば身動きがとれないほど狭く窓もありません。公開見学日には見学者が行列しています。そこで、保護水槽の移設の計画が立ち上がりました。

岡田理事長、高橋先生よりバックネル大学の保護水槽の写真も見せてもらいイメージが掴めました。2×4材で作られた水槽台、市販の60センチアクリル水槽、チラー装置、エア搅拌機と物理的には難しくなさそうですが、保護水槽室の面積との兼ね合いで水槽のサイズ・個数を考慮しなければなりませんし、チラー装置の性

能も考えなければなりません。岡田理事長の希望で流水・溜水の切り替え機構を追加すると、水槽にオーバーフロー機能を付加する必要もあります。もちろん、水槽部屋の給排水工事も必要になってきます。

次回から具体的な作業レポートを報告できるとおもいます。今後もみなさんのお力添えが必要です。ご協力をお願いいたします。



写真1 水槽を加工中に割れてがっかり



写真2 プラ製コンテナにオーバーフロー配管を加工して取り付け（ガラス水槽加工はこれを目指しました）

イラストスケッチ

ハンザキもとのであい

たぐちあいこ 2020.4.30

ありがとう ございました 木原本先生

2016年11月
安佐重神物公園
(広島市)へ
木原本先生が
来られました。
その時に、
9ヶ月だった娘
を膝の上に
写真も撮って
もらいました。
これが、木原本
先生にお会い
した最後と
なっていました...



子どもを見ると
石原先生の姿から
ふっと優しくやわらかな
笑顔を見せて
おられました。

2009年の3月、夫は初めて
日本にハンザキ研究所を訪ねました。
豪快な笑顔をこぼして下さった
木原本先生。
小学校を大改造した
研究所、食育施設...
手配りの木原本やオオサン
ショウオグッズのコレクション
まさにハンザキワールド!!

日本語を崩されて
入院されたと聞いて
いましたが、お元気な
よって、またハンザキ研へ
戻ってこられるだろうと思って
いました...

ハンザキ
オツツカレ
Tシャツ!!
ご愛用頂いて
おられましたね。

印象に残っている
木原本先生といえば!...

何でも4又集・コレクション
標本・標本 標本!!

生動物は
もちろんな
こと

たんが
お酒のびんも混ざってるような...

さすがです...
研究者の
根っこを
少し見ました

ハンザキ
グッズは
必ず4又集!!

のぼり
ハンザキ

手ぐしぬいぐるみ



食品も...
スゴイ!!

「愛ちゃん」と呼んで下さった声は
忘れることはできません。

「オオサンショウオで
何年生きるの?」を
解き明かすまで
あちらの世界を
川を歩いておられる
気がします。



イベント報告

NPO 法人日本ハンザキ研究所第 11 回通常総会

開催日 令和 1 年 5 月 26 日 (日)

場 所 日本ハンザキ研究所

理事会・総会・一般公開講演

理事会出席者 12 名 (理事 7 名・監査役 2 名・オブザーバー 3 名)

総会出席者 49 名

一般公開講演 ザトウムシの話

講師: 鶴崎展巨 参加者 45 名

今年度から、ハンザキ研究所が地域に根差し安定した活動が展開できる基盤を築くため、市川流域全体で支援いただく体制を目指し知見の高い有識者として、朝来市長、養父市長、神河町長を理事に迎え新設された理事相談役に桑田純一郎氏、栃本武良理事、又、谷衆院議員、渡海衆院議員、山口衆院議員、石見元姫路市長などを顧問としてご指導いただく新体制が整った。しかし、ご尽力いただいたハンザキ研究所の宗主栃本武良理事相談役は体調不良のため欠席となりましたが、多くの皆さんの出席を賜りすべての行事が無事終了した。



栃本先生を偲ぶ会 (享年 78 歳)

日 時 令和 1 年 7 月 21 日 11:00~15:30

場 所 日本ハンザキ研究所

参加者 約 150 人

5 月 28 日午後 1 時 22 分、病院にて永眠。

姫路市水族館を退官後、2005 年から旧黒川小学校に入られ、「日本ハンザキ研究所」の看板を掲げられて河川環境教育活動を開始された。

2008 年には、NPO 法人日本ハンザキ研究所を立ち上げ、地元の黒川地域活性化協議会と共に、オオサンショウウオをシンボルとした地域まるごと博物館を唱えて活性化に尽力された。姫路市水族館時代の 1975 年から 2019 年迄 44 年間続けられてきたオオサンショウウオ調査記録は世界に誇れるハンザキ研究所の宝として岡田理事長に継承され今後も続けられる。



朝来市民オオサンショウウオ夜間観察会 (竹原野地区)

日 時 令和 1 年 7 月 27 日 (土)

19:00~21:30

会 場 緑ヶ丘公民館

観察会場 竹原野地区不動尊前

参加者 38 名 (内 27 名 (生野小、中・引率者)・一般 11 名)

スタッフ 10 名

確認個体 4 匹 (新規 2)

第 1 回目の朝来市オオサンショウウオ夜間観察会は、地滑り対策、道路拡張工事が環境配慮型工事として実施された生野町の竹原野・緑が丘地区で、オオサンショウウオ生息調査も同時期に実施され 100 数十匹余りが保護飼育された後、完成後に再放流された。同場所は、調査後 10 年近く過ぎていて放流後の追跡調査が望まれていた。昨年度、朝来市文化財課からオオサンショウウオ調査の依頼を受け調査を実施した。オオサンショウウオの定着率も大変よく新たな個体も数多く確認されている。

観察会には生野小学校の生徒をはじめ小中高の生徒、先生、父兄などが参加しにぎわった。調査では、アメリカから研究に来ているイェール大学生の協力もあり早々に目標数の個体を確保した。初参加の彼は、オオサンショウウオを見た瞬間体が硬直し心臓が震えたそうである。



第 1 回オオサンショウウオ移動展示（姫路市環境学習センター）

日 時 令和 1 年 8 月 24 日（土）10:30～15:00
場 所 伊勢自然の里
・姫路市環境学習センター

参加者 50 人程度

講 師 岡田純博士

スタッフ 事務局員 4 名 他伊勢の里職員

岡田純博士による、プロジェクター活用したオオサンショウウオ生態説明と個体測定を行った。参加した子供たちには、身長、体重、四肢の有無、体の傷など細かく個体の特徴を調べる調査方法などを体感してもらい、伊勢の里自然観察学習参加修了証書が渡された。

生野小学校環境学習

日 時 令和 1 年 9 月 20 日 13:30～15:00

場 所 日本ハンザキ研究所

参加者 生野小学校 3 年生 20 名・引率者 3 名

講 師 岡田純博士（ハンザキ研究所理事長）

スタッフ 5 名

子供たちは、水着に着かえ前面の市川に元気よく入水する。事前に安全に川に入る要領や生き物をとる方法のレクチャーを受けている。この場所は短い間に、たまり場、瀬、早瀬などの場所がありそこに棲む生き物も多様である。時には、オオサンショウウオの幼生も見つかる。





第 2 回・3 回夜間観察会

日 時 第 2 回 令和 1 年 8 月 17 日 (土)・
第 3 回 令和 1 年 10 月 19 日 (土)
場 所 日本ハンザキ研究所
現地観察会場 市川支流長野川
講 師 岡田純博士 (ハンザキ研究所理事長)
参加者 第 2 回 24 名
第 3 回 28 名
捕獲個体 第 2 回 2 匹 (内新規 1)
第 3 回 5 個体

今年度から夜間観察会定員を 20 名とし、安全とオオサンショウウオに親んでもらいやすい体制とした。調査個体数は、豪雨後などは河川環境に大きく左右される場合が多く、個体を見つけるにも調査員は一苦勞する。この場所で平均的に見かける個体は 3~5 個体で最近はやや少なめの状況にある。



移動展示第 3 回(兵庫環境エコフェスティバル)

日 時 令和 1 年 11 月 9・10 日 10:00~16:00
場 所 全但バス但馬ドーム
講 師 岡田純博士 (ハンザキ研究所理事長)
スタッフ 10 名 (9 日 5 名・10 日 5 名)

グッズ販売等は今回見送りとし、無料での缶バッジ作りや塗り絵の体験を行った。暴対法の施工によりイベントスタッフ登録が厳格になり、現在のハンザキ研究所運営環境の中では適切に対応できない状況化にある。そのため、オオサンショウウオ生態パネル・生体移動展示のみの展示となった。ドーム内の一般出店舗もかなりの減少が見られた。総じてイベント参加者も少なめと感じられる両日となった。



地域環境調査報告書

『日本ハンザキ研究所周辺のきのこ』発行

栃本先生肝入りのプロジェクトで、本調査によって黒川地域のきのこ相が県内他地域に比べてもとても多様で豊かであることが明らかになりました。

本報告書が黒川の生物相の全容解明とオオサンショウウオとそれを取り巻く自然環境を保全するための一助になれば幸いです。

編集後記

日本中いや世界中が新型コロナウイルスの感染に震撼とさせられています。皆様方の生活におきまして今までに味わったことのない時局下で何かと不自由な思いをしておられるのではないかと思います。

様々な会合や行事が中止や延期をされている中で、日本ハンザキ研究所の総会や日本オオサンショウウオの会全国大会についても延期せざるをえない状況となりました。いろんな工夫をしながら、新たな手法でも何とかこなしていかなざるを得ませんね。

そんな中でも、当『あんこう 24 号』に投稿していただいた方々には心よりご協力に感謝申し上げます。

新型コロナの完全収束あるいは有効・有力予防薬か治療薬の早期開発を願いつつ、会員・関係者の皆様のご健康をお祈りいたします。

皆様には今後ともご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

P. S. (突拍子もない話で恐縮ですが)

燕が飛び交う季節になりました。民家や建物の軒下に巣を作ることが多いようですが、そんな場所が無い所ではどんな場所に？また、人類がいない時代にはどうしていたのでしょうか？

編集長 増子 善昭

編集長：増子善昭

編集：吉賀一弘・黒田真澄

校正：増子裕子

総括：岡田 純



2020（令和2）年3月31日 発行

特定非営利活動法人

日本ハンザキ研究所

〒679-3341

兵庫県朝来市生野町黒川 292

E-mail: info@hanzaki.net

HP: <http://www.hanzaki.net>

